

「Toyota Core Values」を発揮した、最近の取り組みをご紹介します



アンゴラ南部の港湾包括開発契約を締結 ～アンゴラの経済復興と産業多角化を支援～

当社は、2019年1月、アンゴラ共和国（以下「アンゴラ」）交通省と同国ナミベ湾の包括開発請負契約を締結しました。アンゴラでの港湾開発事業は当社として初めての取り組みとなります。契約金額は約700億円で、その一部は株式会社国際協力銀行（JBIC）及び日本の民間金融機関（日本貿易保険の貿易代金貸付保険付）からの協調融資により調達される予定です。完工は、契約発効から約3年を予定しています。

アンゴラでは、1975年の独立以来2002年まで続いた内戦からの経済復興が続いています。原油価格の下落により経済成長が鈍化したものの産油量が豊富で、ダイヤモンドや大理石などの鉱石も

採れることから経済的なポテンシャルが高い国です。現在、ナイジェリアに次ぐアフリカ最大の産油国の一つではあるものの、原油価格に国内経済が左右されるという課題があり、産業の多角化を目指しています。

本プロジェクトは、同国の雇用創出、南部地域の経済活性化、産業多角化に寄与するとともに、内陸国の輸出入を担う窓口港になるポテンシャルを向上させることにもつながります。当社は、日本政府の推進する「質の高いインフラ輸出」に積極的に取り組み、同国の復興と経済発展、アンゴラを含むアフリカ各国の成長に引き続き貢献してまいります。





ラオス初のトヨタ車総輸入販売代理店を開業 ～同国におけるトヨタブランドのさらなる 確立を目指す～

当社は、ラオス人民民主共和国（以下「ラオス」）で初となるトヨタ車総輸入販売代理店「Toyota Laos Co., Ltd.（以下「TLAO社」）」を設立し、2018年9月1日から営業を開始しました。

ラオスでは、2012年の中古車輸入規制の導入以降、新車需要が安定的に推移しています。トヨタ車の販売台数もおおむね年間1万台前後で推移しており、同国の新車市場でシェア1位です。

これまでは、ラオス国内にはトヨタ車総輸入販売代理店がありませんでしたが、近年の環境を踏まえ、このたび、トヨタ車総輸入販売代理店としてTLAO社を設立し、営業を開始しました。今後、

トヨタ車ディーラーとも密に連携しながら、現地に根ざした事業運営を行っていきます。

また、ラオスにおける自動車関連分野では2016年12月に販売金融会社であるToyota Tsusho Leasing (Lao) Co., Ltd.の営業を開始し、トヨタ車向けの販売金融事業を行っています。

これまで自動車事業及びラオスでのさまざまな事業で培ってきた知見と実績を生かして、TLAO社においてもトヨタブランドに相応しい販売・サービス事業を推進し、ラオスにおけるトヨタブランドのさらなる確立と、事業を通じた同国の発展に寄与してまいります。

